

平成 30 年 4 月 13 日

新燃岳 2018 年 4 月 5 日噴火の降灰調査結果(速報)

新燃岳 2018 年 4 月 5 日の噴火による降下火山灰について、4 月 7 日から 8 日にかけて北東山麓を中心に分布調査を行った。調査地域において降下火山灰は主に灰色の火山砂～細粒火山礫サイズの粒子からなるが、赤褐色の細粒火山灰粒子により全体的なみかけはやや赤みを帯びている(図 1)。火山礫は大部分がほとんど発泡していない角ばった溶岩片(新鮮なマグマ物質)からなる(図 1a)。今回の噴火では 3 月中旬以降の単発的な噴火と同様に、火道浅部に位置するガスに乏しいマグマが放出されたと考えられる。

調査時までには風雨の影響をうけている為本調査の堆積量測定値の誤差は大きいと考えられるが、概ね降灰軸は火口から東北東方向にあり、火口から約 5～6 km 離れた夷守台付近では 4000～1000 g/m² 程度、約 10km 離れた JR 吉都線・宮崎自動車道付近では 500 g/m² 程度、約 20km 離れた小林市野尻町付近では数 10～100 g/m² 程度の降灰があったと推定される(図 2 上)。火山礫の最大粒径は矢岳北側～夷守台付近で 20～10mm 程度、火口から約 10～12km 離れた高原町市街や旭野付近で 2～3mm 程度の大きさがあった(図 2 下)。火山礫の山麓地域への降下は噴煙高度が比較的高かった(気象庁発表で火口上 8000m)ことを反映していると考えられる。

以上の結果は今後の精査により修正されることがある。また、各機関が調査した結果と統合され、噴出量・噴火規模の推定等に利用される予定である。

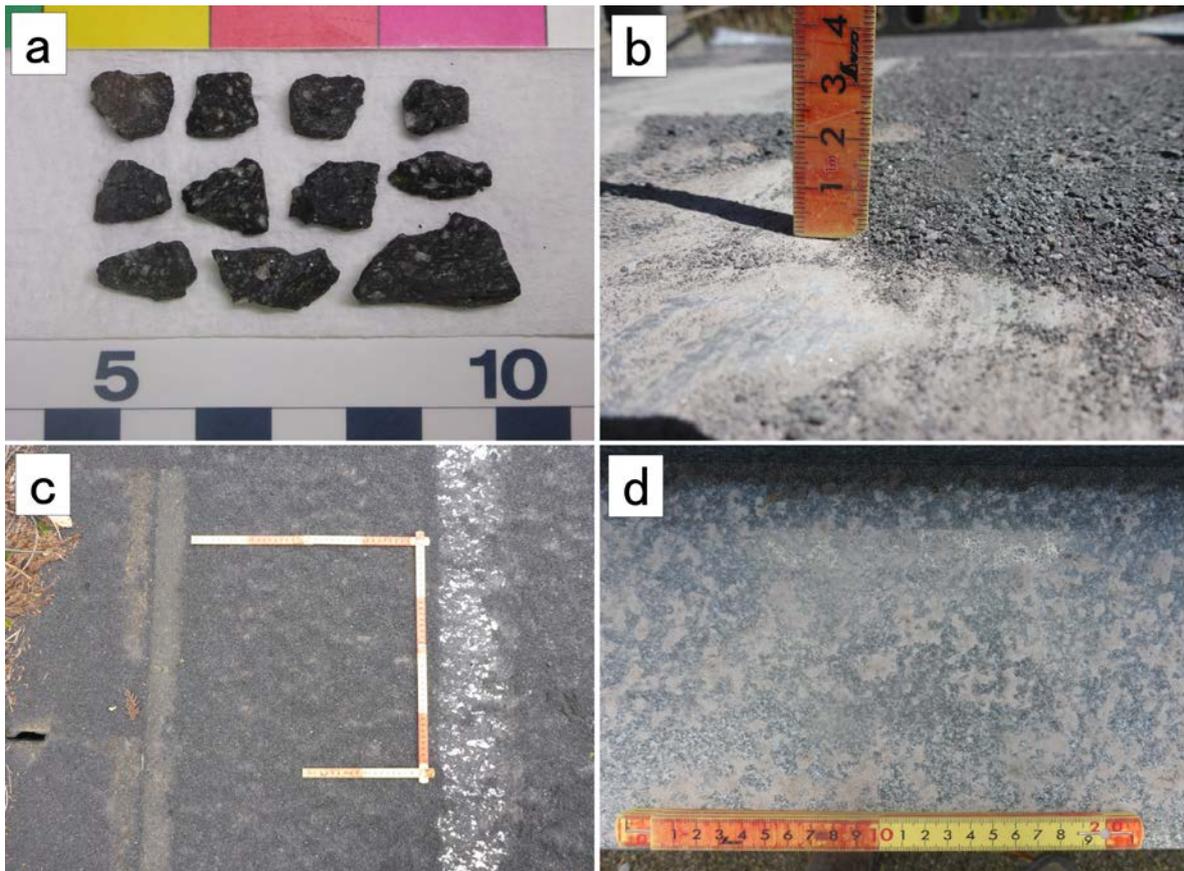


図 1. 調査時の降灰状況。(a) 矢岳北方林道上で採取した火山礫。最大のものの長径は 22mm。火口東北東 3.8 km。(b) 夷守台 V-net 観測点の堆積物。厚さ約 2mm。火口東北東 5.6 km。降灰量 3836 g/m²。(c) 夷守台に上る道路上の堆積物。火口東北東 6.2 km。降灰量 972 g/m²。(d) 高原町川平の堆積物。火口東 18.4 km。降灰量 81 g/m² 以上。

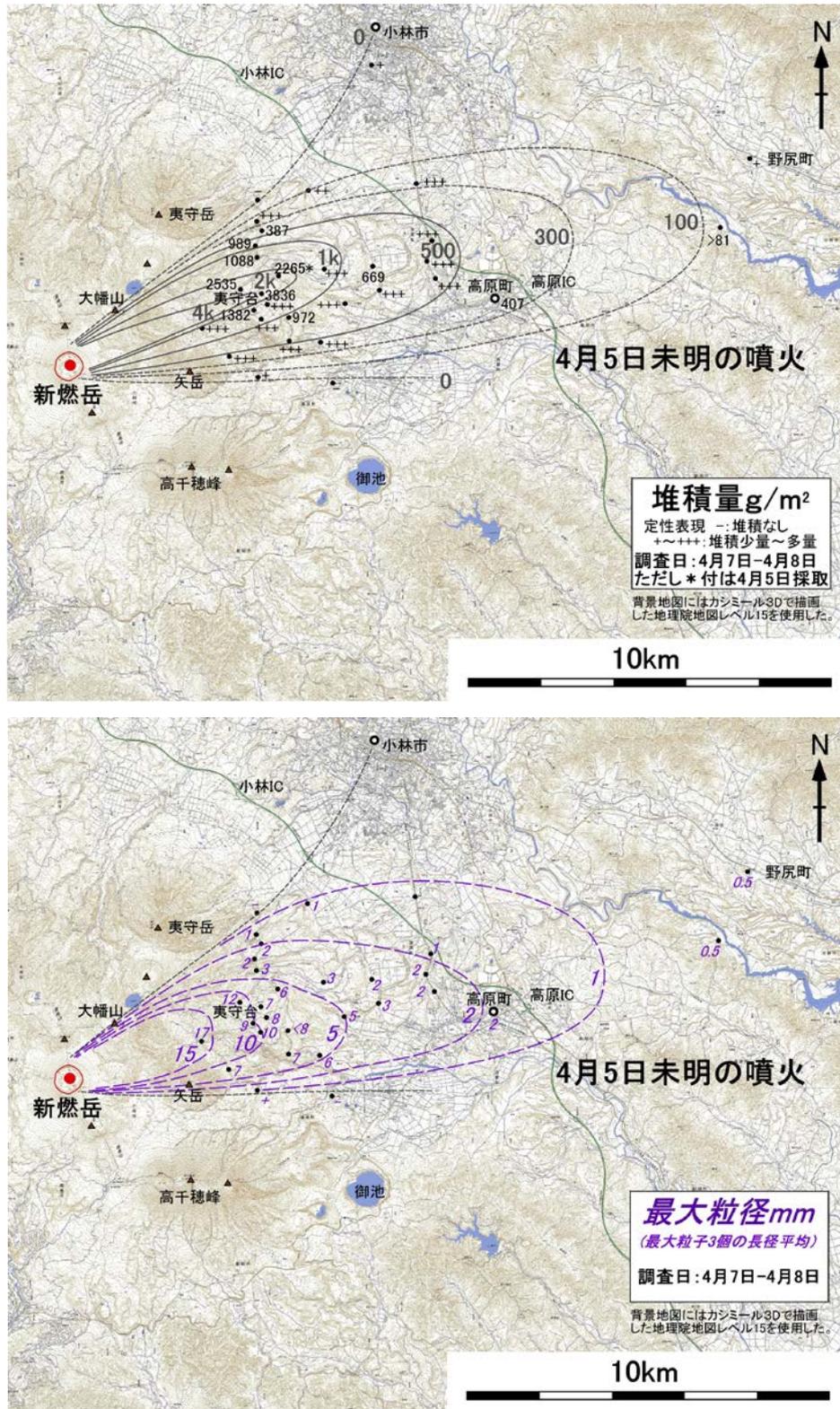


図 2. 降灰量分布(上)および最大粒径分布(下)。

謝辞 調査の際には気象庁・日本工営・熊本大学・地元住民の方々の提供された現地情報を参考にさせて頂いた。霧島ネイチャーガイドクラブの古園俊男氏には4月5日噴火直後の定面積試料を提供して頂いた。以上の方々にお礼申し上げます。